

シラバス

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ		
担当教員	橋本、平川、福崎、田島、隈		
配当年次	2年次	開講時期	2学期
単位区分	選択	単位区分補足	
授業形態	演習	単位数	2単位
準備事項	テキスト、配布資料を熟読してから講義に臨むこと		
備考			

【授業のねらい】

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。また社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し倫理的な判断能力を養う。地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価の仕組みを実践的に理解する。これらを通して、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開、実践モデルとアプローチについて理解を深める。ロールプレイングといった具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習を通して実践的理解を深める。

【授業の展開計画】

1. 被虐待といった支援を必要とする障害者や児童が抱える複合的な課題への総合的包括的支援について実践的に習得する。
2. 被虐待といった支援を必要とする高齢者が抱える複合的な課題への総合的包括的支援について実践的に習得する。
3. ひきこもりや貧困といった支援を必要とする人が抱える複合的な課題への総合的包括的支援について実践的に習得する。
4. 終末期ケアに関わる人たちが抱える複合的な課題への総合的包括的支援について実践的に習得する。
5. 災害時といった地域における支援を必要とする人が抱える発災時の複合的な課題への総合的包括的支援について実践的に理解する。
6. 災害時といった地域における支援を必要とする人が抱える継続的複合的な課題への総合的支援について実践的に理解する。
7. 地域の中で実践されている権利擁護活動を通して危機状態にある人たちへの総合的包括的支援について実践的に理解する。
8. ケース発見やインテーク場面及び過程を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開を実践的に理解する。
9. プランに基づいた支援の実際を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開過程やアプローチについて実践的に理解する。
10. 支援の集結と事後評価、及びアフターケアの場面及び過程を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開過程や支援の終結について実践的に理解する。
11. アウトリーチやネットワーキング、チームアプローチ等の必要性と実際について学び実践的に理解する。
12. コーディネーション、ファシリテーション、プレゼンテーション等の必要性と実際について学び実践的に理解する。
13. 地域アセスメントや関係性の構築場面を想定した実技指導を通して、ソーシャルワークの展開過程やアプローチについて実践的に理解する。
14. 地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握を想定した実技指導を通してソーシャルワークの展開過程やアプローチについて実践的に理解する。
15. 社会資源の活用や調整、開発に係る事例を通して地域の基盤整備や連携について総合的に理解する。

【履修上の注意事項】

テキスト、配布された資料は必ず持参のうえ講義に臨むこと。

積極的な受講姿勢を保つこと、教員から質問されたときは自分の受講姿勢を示す場として活用すること。

【評価方法】

積極的な受講態度 30%、レポートの提出とその内容 30%、評価用レポートの提出とその内容 40%

【テキスト】

『ソーシャルワーク演習（社会専門）』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規出版、最新版

【参考文献】

適宜、指示をする。